

保小連携でサツマイモの苗植え（厚陽小学校）

厚陽地域のサツマイモの苗植えは20年近く前から続く恒例行事で、地域の方9名が厚陽保育園の園児22名と小学校1年児童10名に苗の植え方を指導されました。それまでに地域の方が畝を作ったり、マルチの上に苗を等間隔に並べたりして、子どもたちが植えやすいように配慮されていました。子どもたちは教わったとおりに苗を斜めに深く挿して土をかぶせ、最後に水をかけました。「今日は楽しかった」「大きなおいもができることが楽しみ」などと話し、終わった後、地域の方にお礼の言葉を述べました。



海の学習（本山小学校）

本山小学校は美しい海と山の自然に恵まれ、それらを生かした学習が伝統となり、今年も青い空と海のきららビーチ焼野で海の学習が行われました。はじめに、水産資源の維持や回復のため、刈屋漁港の皆さんの協力を得て約1500匹のカサゴの稚魚を放流しました。子どもたちは「元気で生きろよ」などと声をかけながら、そっとバケツを傾けていました。続いて、縦割り班ごとにアサギマダラやイルカなどを砂で作りました。地域の方や保護者に見守られる中、豊かな自然と異学年でふれあった子どもたちの顔は、いきいきと輝いていました。



生徒が主役の熟議（小野田中学校）

小野田中学校では、学校運営協議会委員と教員、生徒30名が「地域に愛される小中学生になるためには」というテーマで熟議を行いました。参加した生徒は、笑顔で元気なあいさつをする、クリーン作戦を続ける、地域行事に参加してコミュニケーションをしっかりとるなどの意見を臆することなく述べました。また、議論した内容をまとめて発表する態度も堂々としていました。大人からは、子どもたちがよく考えている、地域からの働きかけがあると生徒が地域行事に出やすいだろう、大人と子どもの距離を縮めたいなどの感想が聞かれました。

